

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100849		
法人名	株式会社 エヌエス		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	名古屋市港区東蟹田1001番		
自己評価作成日	平成27年4月14日	評価結果市町村受理日	平成27年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成27年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自家栽培の米や野菜、果物を利用して、安全・安心な食事の提供を心がけています。外出にも力を入れておりまして、月に一度の外出や月に2回の喫茶店、年に1から2回の遠足等を計画しております。たとえ昨日のことは忘れてもその瞬間を喜んでいただきたいと思います！少しでも笑顔で過ごしていただきたい！という思いより、外出を積極的にさせていただいております。また、理念のひとつである“笑顔の絶えない楽しい暮らし”を目指して、毎日皆様に笑っていただけるような声かけをさせてもらっています。その人らしい生活を大切に、コミュニケーションやお世話を通して深く信頼していただけるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は隣接するデイサービスの演奏会、踊り、手品などの催し物に参加する機会が多く、楽しみながら交流が図れる場となっている。保有する畑でとれた新鮮な野菜は食材となり、手作りの食事もまた利用者の楽しみとなっている。大きな窓で明るく温かい開放感ある共有スペースでは利用者が思い思いに過ごし、利用者職員間との会話も多く、事業所全体が明るい雰囲気である。町内会や老人会との交流があり、防災訓練には地域住民の参加があるなど地域に根ざした事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初より、理念をその人らしい生活を大切にする、笑顔の絶えない楽しい暮らし、地域に根ざした暮らしとさせてもらっている。理念を玄関やフロアに掲示し、常に意識を持てるように心がけている。	職員会議の場で時折理念について確認を行い意識するよう努力している。日々の生活で利用者がその人らしく楽しく過ごせるよう、利用者の気持ちを考えながら接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や毎日の散歩等を通して、顔なじみが増え、地域の方に消防訓練にも参加していただいたり、回覧板を回していただいたりと交流が増えつつある。子供110番にも加入している。	町内会ではゴミ拾いやバーベキューなどの行事に、敬老会では防犯研修に参加をした。月に2回近隣の喫茶店に行き、馴染みとなっている。年に1回園児のお遊戯披露があり利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の入り口に介護相談の看板をつけて相談を受けさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況をお伝えして、地域ではどうなのか伺い、助言を受けてサービス向上に努めています。	年に6回開催し、施設での活動や行事予定を報告している。出席者から意見をもとに減塩食の取り組みをしたり、会議の中で利用者地域住民とともに避難訓練を行い、消防署員より家具の固定を学んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことや困ったことがあれば、役所の方に相談させてもらっています。	いきいき支援センターや居宅介護事業所から空き状況の問い合わせがあったり、生活保護担当職員の訪問もある。市町村主催の研修には出来る限り参加をしている。	
6	(5)	0 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日ごろより身体拘束のないケアに取り組んでいます。	スピーチロックは日頃から気をつけており、職員間で意識付けがされている。日中玄関施錠はしていない。夜間において転倒の危険がある場合は家族の了承を得てセンサーを利用する場合もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今までなかった傷や紫斑などあればスタッフ間で情報共有し何故できたのか話し合い虐待ではないことを再度確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルや講習会にて学習する機会を設けています。また身寄りのない方は権利擁護の機関にて支援させていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や毎月の便り、訪問時等に伺い、不安のないように支援させてもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に伺ったり、意見箱を設け、ご要望をいただけるように努めています。	家族の面会時に直接意見を聞いたり、日頃の行動、言動から職員を通して利用者の要望を知ることできる。目安箱があり間接的に意見を得る体制もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間をみて職員に意見を聞いたり、会議の議題にして運営に反映できるように努めています。	職員会議以外にも日頃から職員間で話し合いができる環境にある。利用者の立場にたった援助方法などについて意見交換をして、食事介助、服薬などの検討が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働いてもらえるように働きかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を周知し、力量をみて指導できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会や親睦会に参加してもらい、同業者との交流を定期的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困らないように耳を傾け、個々の対応や関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞きながら、ご利用者様にとって一番いい方法を一緒に考えられるように努めています。また長くお付き合いをさせていただきながら信頼関係がとれるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご事情によっては他のサービス機関をご紹介します。ご紹介させてもらっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々に違う、出来ることを尊重し、手を出し過ぎる事のないように努めています。また敬意、感謝を言葉に表すことによりより良い関係が築けるように努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にさせていただき、絆が心配される場合はこちらから働きかける場合があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いを組みよい関係を維持できるように努めています。	家族が面会した時に利用者と共に馴染みの美容院や墓参りに行くこともある。家族の訪問が困難な場合は職員が対応可能な範囲で同行したり、電話や年賀状のやり取り等の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様の関係を見守りながら、良い関係作りができるように支援させてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も他施設等へ伺い今までの関係を大切にさせてもらっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望が叶えられるように努めています。	日常生活の中で、一対一で支援する入浴時などの会話から聞き取り、話せない人からは、答えを選択してもらう方法で思いの汲み取りをして、それらの要望は、介護記録や連絡ノートに記入し、職員間で情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より伺ったり、日々の生活の中でも読み取れるように注意しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を職員同士、申し送りや会議等で情報を共有し、その方にあつた対応を心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロアー会議にてケアのあり方を相談しています。またご家族に近況を相談して、ケアのあり方について、ご意見を頂き、ケアプランに反映させてもらうこともあります。	モニタリングは、月に1度、担当職員と共に医療や、介護記録を基にして行われる。面会時などで聞き取った家族の意見も取り入れて、3ヶ月に1度介護計画を作成している。状況の変化があつた場合は、その都度話し合いの上見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロアー毎の連絡帳や会議、普段の会話にて情報を共有しながら、ケアプランや日々の対応の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様本位のサービスができるように、常に相談しながら、決めさせてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	帰宅願望の強い方は定期的にご自宅へ帰られたり、買い物・喫茶店がお好きな方にもご家族に協力していただいたり、職員が対応させていただき、ご満足いただけるように支援させてもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を伺い、日々の健康管理は協力医や看護師に任せていただけるようにお話しています。	入居時に、全ての利用者がかかりつけ医を協力医に変更している。協力医の往診は、月2回あり、週2回は看護師が訪れ健康管理を行っている。専門医へは、家族や職員が付き添い、申し送りノートなどを使い情報の連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	フロアごとの看護師ノートで日常の相談をしています。また、時間外にも臨機応変に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて職員間で話し合っている。また必要な場合は、ご家族にも相談させてもらっています。	看取りに近い経験があり、医療行為を伴わない限りは、支援出来る体制を整えている。利用者の状況変化に合わせて家族と話し合いを重ねて、最善の方法を選択できるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや講習会の参加にて学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っています。うち一度は地域の方、消防署の方もご協力いただいております。	4月の訓練は夜間を想定し、10月は、運営推進会議に合わせ、地域の人の手助けを受け利用者を近くの広場まで避難させた。その際に、利用者が数名で1本の棒を持ち、はぐれないようにする提案を受け、実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしく生活していただけるような支援を心がけています。	利用者、それぞれの人格を認めることで、家族のような親しみの中にも尊敬と、節度を持った対応をしている。職員は、2ヶ月に1回のスタッフ会議で接遇やプライバシーの勉強会を開いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が答えやすくなる質問等、その人に合った対応を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	与えられた状況の中で一番ベストな状態で一人ひとりのペースを大切にして尊重させてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいお洒落ができるように支援させてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様が喜んでくださることを考えて献立を立てさせてもらっています。また、お手伝いも力量に合わせてお願いしています。	保有する畑や水田でとれた米や新鮮な野菜を使い、利用者の意見を取り入れ、季節感のある食事を提供している。外食やバーベキュー、誕生日の手作りケーキなど、食べる楽しみに力を入れている。今年度は、運営推進会議で提案された減塩の食事に取り組んで、利用者の健康へ一層の気づかいを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量や必要があれば水分摂取量を記録しています。また、刻み、とろみ等、個別に必要な対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力量に応じてケアをしてもらい、足りないところは職員でお手伝いをさせてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握してなるべくトイレにて排泄していただけるように支援させてもらっています。おむつ外しの支援もしています。	自立した利用者がほとんどであるが、排泄チェック表をつけ、排泄リズムの把握に努めている。夜間は、リハビリパンツ、パットを使用する人もいるが、基本的には、トイレでの排泄を心がけ、時間を見ての声掛けなどの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、乳製品や食物繊維を積極的に摂り、時には腹部マッサージを行う等をして自然排便を心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、タイミングや声かけ等工夫して気分よく入浴していただけるように努めています。	週3回の午後に、歌を一緒に歌ったり、会話をしながら入浴している。菖蒲湯やゆず湯で季節を感じるなど、入浴を楽しむ支援を行っている。入浴拒否がある場合は、声掛け方法を工夫するなどして、無理強いせず清拭することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人、おひとりご自分のペースで生活していただけるように支援させてもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が共有できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を活かした支援をさせてもらっています。気分転換や筋力維持のための毎日の散歩、喫茶店、買い物等を支援させてもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にも協力していただき、ご自宅やお買い物、喫茶店等へお出かけしてもらっています。	日常的な散歩を始めとして、近隣の馴染みの喫茶店へも出かけている。いちご狩りや花見、藤の花見物、なばなの里など遠方へも出来るだけ多く外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族と相談して決めさせてもらっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙や電話等を支援させてもらっています。また、ご希望があれば、代筆もさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて貼り絵や写真を考えています。明るい共有スペースになれるように心がけています。	南側の大きく広がった窓から、明るく光が溢れ、広々としたリビングは、開放感がある。壁には、利用者が取り組んだ習字や絵、刺し子などが飾られている。昼食後に、刺し子を楽しげに刺したり、ソファでテレビを見たり思い思いに寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日向ぼっこをしたり、日記を書いたり、気の合う仲間でおしゃべりをされたりとお好きなように過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい清潔な空間が保てるように努めさせてもらっています。また以前の生活習慣に近い居室になるようにも努めさせてもらっております。	居室には、慣れ親しんだ家具が持ち込まれたり、位牌や家族の写真、手作りの作品などが飾られている。利用者の個性ある部屋作りとなっており、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字を大きくしたり、目印を付けたりして分かりやすい工夫をしています。		